令和８年度青少年グローバル共感キャンプ　参加レポート

報告者　田中　瑞貴

青少年グローバル共感キャンプで印象に残ったこと

私はこのキャンプでたくさんの人に出会い、異なる文化や環境の中で感じた全てのことが宝ものだ。初日、初めての飛行機、海外、空港でのあらゆる手続き、ついに海外へ出発するんだと胸が高鳴った。飛行機から見る空や海はとてもきれいだった。韓国に到着し、最初に同室の子と出会った時、初めは国の違いもあり、なかなか話しかけることができなかったが、いざ話しかけてみると意外とすぐなじむことができた。

翌日、全てのプログラムが英語で進行するのを聴き、つくづく異国の地に来たということを実感した。また、国際問題や地球市民について学び、国際社会に出て生きていくために必要なものを学ぶことができた。

３日目、海岸清掃で行ったチェジュの海は美しかった。チェジュの海に日本の海洋ゴミが漂着していると聞いて、胸が痛くなった。その分、一生懸命ゴミ拾いをした。

４日目、アルテミュージアムに行って、この上ないほど美しいものを見た。家族にも見せてあげたいなと思った。英語の生活、友達とのコミュニケーションにも慣れてきた。

最終日、別れを前にして泣き崩れ、友達から「Don't　cry」と言われた。たった５日でこんなに仲良くなり、別れの時に寂しさを覚えるようになると思わなかった。海外でできた心の友だと感じた。帰りに空港のレストランでビビンバを食べたが、本場は美味い！チェジュも素晴らしかったが、帰りのバスが唐津に近づくたび気が緩む。唐津は私のふるさとなんだと気づくことができた。

青少年グローバル共感キャンプで学んだこと

１つ目は、海洋問題について。もともと海の近くの町、唐津に住んでいるので海洋問題については前から知っていたが、問題は実際に動かないと解決しない経験をした。全世界が協力していく課題である。私もできることから１つずつ始めたい。

２つ目は、異文化交流だ。日本のお菓子を同室の友達にあげたり、日本のおもちゃであそんだりした。友達は日本の文化や私の話を興味深く聞いてくれた。友達は私に韓国やチェジュの文化を熱心に教えてくれた。文化を知ることは相手を知ることだと思った。お互いを尊重し理解しようとすることで、国を越えて友達になれるということを知った。

３つ目は、帰りの唐津へ向かうバスの中で、普段落ち着いた生活ができることがどれだけありがたいのか知った。当たり前のように過ごしている唐津がこんなにも居心地がいいものなのだと感じた。

これから、いかしたいこと

初めての海外研修なので、行く前には不安や緊張もあった。しかし、いざ行ってみると大変楽しい有意義な研修だった。やる前はためらっていたが、やってみたら楽しいことも数多くあり、これからは何にでも前向きに挑戦したい。さらに、気後れして話すことをためらっていたら、誰にも自分の意思が伝わらないので、初めて出会う人とも積極的に話しかけていきたい。世界中の多くの人とコミュニケーションをとるには、やはり英語が大切だ。これからも英語を極めていきたい。

また、国際的な交流の場において、相手の文化を認め合うことは重要である。日常生活でも、様々な考え方の違いがあった時も、相手を知ろうと努力し、受け入れる姿勢を養いたい。

最後に、何か問題に直面した時は、「問題を見つけ、責任を感じ、実行する」この三つを徹底していこうと思う。



海岸での清掃活動



自分を表現する旗の製作